



中村俊定文庫
文庫 18
182
2





五乃更此中子淡こと信り予く更あり相とも
 琴瑟を奏ふことありあけを雪らるる笑ふ
 吾等前は極ふあのみき申すげんや其
 道をつき四の友とありてはらんあし
 志らも師思ひ我わきまをたしと云ふ乃作
 志のくおろそらなるは正者あは日く以て
 のむる成きことあは細道の導師と評す
 一乃我吐く言わん物の方を起すあ



その人乃作の録を記す
 教雨

六千余日を暮らす水
 淡く

巖を越して拾ふ成録也
 東郊

あの草と花を儀を厚のる

松舎

旅篋篋引率とる園共月

竹宇

膝中砥乃うつるやうり

也長

別業中窓よ志さうきりし

水色

深さの念まら鱧斗一尺へ

執筆

大乃舟てハク存中ハク色

大幸

阿の湯をりけく跡凍さる

李職

おん張りたる向ひみ生駒山

松洗

さうやうとも亀毛龜角と

柳島

松りんよ平話て庄すおハ雲り

吳川

野少引をえて涼り陰

東郊

喉の骨たちをぬ白ハ半能

松舎

葉抄おきてさ東下とガ

羽雨

わさきとの橋くこ此日乃神風

也長

てんて洞へて秋の峰立

竹宇

嘗るのれ造おのれ笛をみは書

漢く

あういめ負けて波鼻をん胸

水色

運法よき友を誘ひて立おき

李紙

百人作のそりし中索へ

松洗

三年一度もゆくぬ大和昔月

新白

法感討る宋より清とく

古志

前如日の晴曇我見て碎す

水色

迎ふ車よ志う綿一眠

後金

隣めもほゆる雲乃松穀の突

東部

月北西移よをね角之入

や七

蜀穀の子旅く我志め道

竹字

くはく場より引籠り後

真川

ちんちんハ織よまきゆる是つ

大壺

一万五千石をこれ估量し

水色

高守ハ存しるもの鏡も空

や七

数書を伺ひて書きて孫も

柳色

世々々女信をりりよわ神國境 杉洗

金物色て住おほほほ 李祇

人形^形子志ま〜〜成る鉾のゆん 糸文

蛇女下つて〜流り〜鉾 東部

わさ〜紋消して〜るのち小る回 奥川

撥ま〜塚乃昔をりりきやる 糸由

髪いまぬそま〜不確女無所 竹字

油の樞み奥子産む〜 信^漢々

花をむり〜今又京乃すかひん 珠金

何〜成か〜も唐杖女〜 古衣

懐舊

香かろふむり〜乃極人 雲散

テ〜わ〜ひやま〜る残〜る〜白見牙 立命

影山く〜

野々子とてこゝろ

梅款奇

夜帳やむつりハ餅麻のけん 信安

散車小中

散けり乃甚きる幸ふ山をたれ 知石

物如くそ昔よりよのそよ音律に
とつて余我謂持此片つて琵琶
助けり何れ我地をいふ今そや聊
師を思ふむしあ

今めお成るすけの竹や老翁月 渭橋

紫衣長 好縁検校 法橋

雲追く雉也言品や岸をそへ 教雨

起りよやまハいまこ寝はちり 封菊

ま川物そつる至日乃市はあま 孤雲

こゝろも旅 了長あけけ掃 山

海山の海を世に翻るすつとをあせ 大立

若美あや知 是れ無定より 沼橋

只の子とてまをハせぬし 鶴也 封菊

神位細手場ハ切んく 鶴也

幻々々々々々々々々々々々 施等 川山

昔ハ只々々々々々々々々々 孤雲

庫裏をこめてこのまに坂雲由 沼橋

とんと割風ま成岸り 大立

むすいひの表りいさをもくく 鶴也

厭て止るれく編新 封菊

是ふとふ花の中へ乃今も凡 孤雲

居るは是 柳手伝され 沼橋

古きまをな流は船のり風 大立

伝し 小親又まんぐ日暮 川山

空はくくも鳥乃流すり料理人 和菊

はま 小脚 百金中 ねんり 鶴也

物事そかとまは同きそ好まり 沼橋

まの泡を静ま拭くしす 孤雲

層々下りて孔雀乃尾子修也
此山

夜半の露とをこハ舞
たま

中つとれこれいともものま山雲
数角

寝たわつて心鏡極乃と有
お菊

所才又月夜乃て操り倚
たま

草花り梓花刺くのま
沼橋

^ウ野髪めを結くハ甲斐の幸金と
弥雲

布施の分なといふに
子角

橋板を橋平より引くハ若く
沼橋

藪を壁なりハ此古道
たま

新井瓢羹の程かく其花の露
封葉

孫生我まめを懸け
乃山

吾子乃常我おこ

老於花下婦々いかに酒は星 封菊

明日を待つ情は旅人の難 法し

鞭をわきまに郭下す 蝶々をん 好由

腮をくちをきし 教裁 古ま

月如屋のこぼれたる滝乃幅 沿檜

宿子約く袖ハ何止宿了 孤雲

蒼々麦練子あやうりて松の影 凡山

王の美し 鐵の幕布に 封菊

おむす我後くらんを頼るおきお 古ま

坊にまきらて舞乃うらハ 好由

あすかりし枝干を花に織り出 封菊

な 物と成に 五よよ 一樓 古ま

そのまや仲たたりま近ぬ国より 好由

石をあらうせぬ田井は波 封菊

判り及藤の葉斗生るれん 古ま

細きも引も花山と蛙をん 好由

寛永元月十日 ぬき籠小判 全

柵中子 柵乃子 封菊

算市 同 事 全

永年 同 一 全

貴加減 柴子 鹿 全

何れ 巾 物 封菊

ちきや 紙 目 氣 子 封菊

色 名 成 附 娘 撰 全

似公 ぬき 思 心 封菊

地 ぬき ぬき ぬき 封菊

道 ぬき 出 列 率 子 花 封菊

祢 御 可 掬 月 封菊

幕 ぬき 全 ぬき 乃 初 封菊

戸 ぬき ぬき 封菊

十 存 ぬき ぬき 封菊

昔 ぬき 糖 封菊

の 星 や 花 を 横 よ い つ ら ぬ	の 星 に 雲 り 成 待 中 池 水 鏡	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 や ま む け く る 町 の 一 夜	明 星 や 夜 更 り 蝶 少 く も う れ な い	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音
春 野	李 氏	南 二	星 山	尹 張	南 二	南 二	南 二	南 二	南 二

山 の 鈴 や 四 重 よ 追 く 春 の 麻	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音	の 星 に 中 す こ も ま よ と る 川 の 音
金	和 春	千 雪	白 扇	春 芦	竹 先	也 長	し 澄		

南よりやいせれお神の足跡 まじりぬ

おれと指さしたるを 獨り 雪然

森をうんで 穀月をわ

樹屋をうり 奴一疋

昔のころより 編みかき成り

け旅をうり 起りしをい

二社に定銀百文 仲買の郭を

益友をうり け前よりか

死生の山を似して遊ぶ あそび 盡

本乃信し 信し 棧道とぬ

ねむり乃直に ぬり け前よりか

鈴をうり ぬり け前よりか

鈴をうり ぬり け前よりか

廿乃ぬ 席をうり け前よりか

雲をうり ぬり け前よりか

歌をうり ぬり け前よりか

新刻のきも歌乃玉け
流るるさそ歌りあくる
天地の中は批灯りきん
眩立しして極意年た
念ふに解名只言歌此花出より
法經字やさるるまの信
年々手入つてのちめぬる物

人喜ぶとく奇代如めよ
昨日は赤屋移行 帳の軽き
高橋く天む根雨乃差絶
袷よりあたる名月乃花の人
年々あつてはあみちうし
己ん

十日全お

百韻そと

野橋

一るまはく〜紫より〜け〜嫁〜門
 可〜そ〜忍人〜あは乃橋哉
 及生の武花可〜中〜山〜所〜
 洞〜不〜櫻〜平〜橋〜さ〜く〜一〜も〜成
 を〜し〜も〜お〜川〜さ〜く〜民〜乃〜袖
 や〜平〜山〜袖〜振〜ふ〜初〜娘〜な〜う〜め〜成
 華〜乃〜陸〜し〜も〜さ〜お〜お〜川〜さ〜く〜橋
 社中

湖乃揮ぬき草山はく〜
 長〜あ〜く〜振〜時〜乃〜ん〜う〜於
 放射〜は〜河〜の〜さ〜く〜の
 山橋包む社中野りけい〜や
 横は〜あ〜り〜あ〜〜長〜清〜せ〜山〜は〜く〜
 年子〜あ〜る〜野〜路〜乃〜鶴〜中〜橋〜人
 鏡臺乃さくぬや元乃さく人
 四〜く〜く〜あ〜く〜自〜習〜乃〜鏡〜波〜式
 湖林
 山光
 蘇東
 千紅
 莫定
 鯉階

少年 梅樂

時之七

文見玉成	成	成	成	成	成	成	成	成	成
今	今	今	今	今	今	今	今	今	今
壽	壽	壽	壽	壽	壽	壽	壽	壽	壽
西	西	西	西	西	西	西	西	西	西
誰	誰	誰	誰	誰	誰	誰	誰	誰	誰
指	指	指	指	指	指	指	指	指	指

懷舊

昔	昔	昔	昔	昔	昔	昔	昔	昔	昔
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
歷	歷	歷	歷	歷	歷	歷	歷	歷	歷
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
此	此	此	此	此	此	此	此	此	此
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

題櫻

少はく〜あふむ〜此破哉 正元

帳は強きそらふあり〜山極 羽衣

むし去君子七画儀なり詠乃妙ある〜
後〜〜〜
日〜〜〜

乃る中数〜蝶子一〜氷花

三字中畧

面影〜八〜人〜又〜大幸

空〜ぬ〜を〜子〜淡〜

泡〜一〜蝶〜流〜了〜且〜清〜釣傍

せ〜い〜あ〜お〜の〜孤雲

〜の〜〜〜南園〜上〜乃〜旅〜阿水

〜子〜通〜り〜矢〜大〜食〜羅人

南天八月夜此隈の白〜山

〜の〜〜〜〜〜葉〜撲〜舟

紙籠〜志〜乃〜道〜形〜世〜紙〜一古

〜の〜い〜と〜傳〜く〜振〜て〜箱〜程事

〜は〜は〜形〜の〜互〜々〜如〜顔〜昔光

遍寒人よりくはぬめを平

経階

ほろり續けをく大ぬき

大至

流るるきくおふ所の樹へ果

難人

葉の氣かしくまう路をた運ぶ流

約吉

孤洞破くくくゆくあきた

号舟

能くまへんぬの流るるを襟

沼水

はくおぬの庄阿あて二人め

孤雲

あきくぬ中ハ雨もあきく月の色

一古

あきらましくやまぬ物も乃花

留巻

二ウ
あきらましくやまぬ物も乃花

妻系

紫の薔が花遊ふ静一徑

女系

くくくくくくくくくくくくくく

若光

くくくくくくくくくくくくくく

一古

潜つても未一本ハきくくくくく

高志

世間ハ知れずくくくくくくくく

大至

男色ハ櫻が葉表乃玉の雪敷

船巻

折目をくくみたる神藏 山

相傳うたけ色の鏡をさせる 孤雲

両山脚に月と落日 沼水

秋景はよけまを 研山鏡を以て 善舟

少年京を知らずと物乞を以て 約者

信通をぬき乃をけしハ花の風 狂人

懐ふ二階を成て 具ハ 狂 早稲

三 寝すくくみたるくくみの雨を以て 一古

丈化振りたる色ハ 珍実ハ 小紅

折よ香花の中へゆく 昔話 善定

押入りの神のこころ 狂言 狂言

梅聯より月の雲を渡り 狂言 狂言

元来天宮を以て 洞乃出入 善舟

二 ぬり乃りけし 狂言 狂言

けしはあつても 二代 仲人 善光

水もすれはあつても 松乃いなり 狂言 狂言

下郎の志る一足子歌なり 狂人

折とれ力と信て波を女 乃山

誰も来れんと内入乃癖 孤雲

山更々南音何能く佛持後 御書

立々小便させぬ 珍なり 春永

三ウ
常々来る地つたきし 建出さぬ 程孝

いままの家とかなぬ存在 乃山

降る日よかきくお空の重すを 村菊

系圖見せんといふは日姓 古急

あゝとていふも五人のむ言は浦 昔光

初とていふは是も水鏡 一古

尾とていふはかゝるは志はぬ信屋 孤雲

戒していふは又 誰かあつる 古急

月白とていふは遊小破板板 乃山

芋とていふは糖女 殺伐 沼水

孫とていふはおか心之服方より 押入 狂人

赤気歩んらん身き吸物 釣香

柳挿ハ田舎ハ限花乃所 出舟

詩ハ隣ハ為実ハ廿五暮リ 其室

はえかゝる旅乃去園膳不曉 沼水

昔ハ木も海ノ空うちそゆき 経階

訂る字ニ感々倚子のまゝハ 大立

古風ニは立因^レ人ヲ^レ創^レ 和書

送^レはる衣子こりく初別^レ 凡山

抑らりねふあねと又せま 昔光

昔^レのなりし鞭ヲ押る^レ草^レ 釣香

とれおの日のあらし舟^レ針 大立

語^レのりそる^レ新^レ理^レ人 老翁

五六年未因^レ年一^レ厭^レク 和舟

火^レを^レひ^レま^レ従^レう^レん^レん^レ乃^レ前^レ白 一古

銅ハ緑^レを^レ吹^レく 空^レの^レ席 孤雲

十古^レ初^レや^レ花^レの^レう^レの^レ 畫^レの^レ賦 筆^レ抄

虫新乃命我降す美
是并

^十夢のりそむふくぬけり石鏡
架並

こころあうやぬ一輛乃跡
死人

依炭乃陰子残里一登此表
孤雲

飯後〜千里を玉まきれ
一古

浪怒りつゝあま騎ぬ二柱
若光

竹〜りあまを〜と此紫
大立

八轉乃中かゝる別花はりり
比山

い〜る〜河〜す〜
沼水

十七回のすゝめ

泣〜月や生〜花は嫁〜
李賦

蛸も〜あれ市乃おみ
流し

^二續〜山は北月を〜
う虹

隣より使額を下す
 法よりある者も立信別子
 山より如根をすも管管立
 志より我国に拘て景光より
 一より中取人鶴取乃と空
 猶 凡新水清沙水素より
 後之臆脂常より月
 母より如伯之我似世より通云沖
 寛子
 既成
 鳥又
 可如
 陸山
 事成

約親よりトよりト
 一より一員大より如東下ね
 凱陣結より人若子け
 高より一と投より心と
 陸軍より度州 昭新信標
 従弟よりけ信長我信謙之
 釘より手と神より一と玉離此日
 扱より一節より一人負原
 寛房
 寛舟
 みの
 碩成
 下町
 陸山
 魚車
 妻房

今春は仲三止の竹
寛舟

塵世感阿梨

永意不名を以せん土筆	取洗
簞子も竹も歌く栖る	洪
春もも子壽如道果管押す	沈

枕く退ききあけく藤賣	女
新池く望みんきハ梅と抱	市
一ハぬがせく澤の氣と拭	畔
遠も如く出さぬく月乃隈	妻
いつの程かきん夢中	老
老行司針やけけはほき	親
あつしはゆる法搭側を	沙
撫くくし邪よりく水は志	女

牛一子幸一まそくわくおを道	桐洗
まろぬれ我持てふ村にまろ	時里
宮石けりりるるる白	五左
流る能て虹女折し	洗儀
皆いまぬきむ女折さむ	五左
失ふは帽さむ村乃名を感心	桐洗
かふりくく指く規矩拵投新	五左
子曲さるる折さるる	五左

二	神もも浪乃かきん冠の	五左
踏うあるまも久米汝の花ん	時里	
維多我画し焦さおん	洗儀	
意くまると甲ハ外く揚させ	五左	
せふくくろむく懸籠の夜	桐洗	
時候き狐乃宮よ川一乃音	五左	
耳よ折れくは弾む	五左	
く折れくは弾む	五左	

撰つく拙力をもて住子撞初
 時包
 以東陽をみるやうもむを繡の蓋
 杉洗
 かまふに海に舟の川枝
 多風
 殉死乃前日志ん振のけ
 止儀
 嵐如仙遊人と杖てさるふ
 五考
 一美おハ富者此麻のおき海に
 一考
 名ふふ学あまの一方路ぬ時
 五考
 弓張乃是子^{子ホリ}定此静たより
 時包

手本も〜いよも〜し揮
 杉洗
 呼もさふ乃花尺の何〜し
 五考
 娘〜し夜寝何〜し
 止儀
 詩〜し下ふ知ちよらよん
 多考
 舟やう日の中を海を移り積り
 時包
 舟をけしんれい似合ぬ音やう
 杉洗
 新〜しも筒よか〜し窓突
 一考
 吟〜し窓空竹川乃〜し
 五考

宗徒乃襦袢我知む故立
 板石
 子ぬ〜むか〜己の時とふは
 筆抄
 ときよ〜やを春此眉敷
 毛糸
 物らうも此終は次乃末に指し
 指山
 ありう人新楠のあ從
 五毛
 隣家津〜むすし〜の
 毛糸
 吾り訪ふは屋〜り月
 筆抄
 う〜まる上毛の星も春の
 柳石

碎〜曲〜仰〜りきり雨
 指山
 一歩〜り千如屋形乃能仗
 筆抄
 律修む〜る世木〜着
 柳石
 戸〜〜〜喜〜〜
 毛糸
 懐やむ^上〜き〜不破の蓮月^始
 毛糸
 毛〜〜と結あ〜始^始〜
 指山
 毛〜〜結ある〜あ〜
 毛糸
 唯一の筆乃二品〜〜
 指山

まはるる水舟の舟の上 魚川
 翠乃蟻のわくるま 桃 清
 肩や裾波手燕侍 一枝
 杖引くちよ谷花積を 越中
 月よ海東障子山城乃大平筋 蝶家
 粟刈 見たりは 徳家
 若くは積ふは我のつれなき葉 金屋
 中すれハ花う成らん負物 木水

こゝに雲鴨の睡ふ静や 先朝
 調なまあゝの調子如く 玉立
 棒突つるあゝのあゝ銀歩 執事
 一丁儀の障をきくまは 美川
 釣瓶徒放つる笑ふ花盛 瓶屋
 木更た名乃や花を漏 一枝
 東風は吹ぬふれをさす君の代り 徳家
 香の物掃くまは白粉巾 徳家

牛の蹄もあせむ下独歩の時
 一歩も
 沼をりしとて望月を侍
 先朝
 斗儀けりぬ眼^{まなこ}侍乃^の侍^は是
 玉立
 晴くらくとてさくを人食乃友
 金屋
 さ何とてけ聞えちもて居休
 莫川
 心いさめて筆を美おハ紙
 紙
 續紙、ちんちん紙とてし
 紙
 肌は逢て我ちもさ乃^の子^の産^のい
 襖衣

へら紙下、紙乃^の雨
 一枝
 柳^の枝^はく^くく^く成^るに^くく^く家^の傍
 糸糸
 一騎^は玉^の強^し、^あ乃^の脚
 先朝
 甲^の首^は持^てて^て弄^すて^て糸^の吞
 玉立
 世^は伊^を逢^をお^は侍^しく^く侍^の胸
 金屋
 唯^は竹^の乃^は春^はお^はき^きり^りと^て急
 莫川
 竹^の揚^がて^て世^は成^るく^くを^ぬ結^の山
 紙
 樽^の柄^はせ^てぬ^ぬは^ぬく^くの^紋、^一枝

おのや	行ふ	すま	ま	ま	ま	人	雨	陽	を	玉	立
國	と	お	と	我	我	我	我	我	我	布	泉
管	我	擲	て	不	抽	り	と	花	の	声	瀬
蛙	も	捨	れ	池	に	中	る	る	る	る	水

野山、夕

ハツのお母やともまきま引曉雲

山	く	く	紅	の	奥	なる	呼	子	を	丸	回
花	乃	却	折	れ	け	う	へ	の	山	う	約
山	蘭	の	纏	り	け	あ	れ	あ	雲	孤	雲
一	月	懐	い	わ	る	や	う	ほ	る	山	山
教	つ	て	狂	味	お	花	を	と	さ	ら	洞
春	風	お	ぬ	き	や	吹	か	か	か	木	竜
花	を	信	ず	ま	れ	境	や	山	う	清	波
時	臨	ま	ら	吹	こ	ら	乃	下	ま	る	吸
											月

三十五

うらぬと新くふきし山くぼり
 死人
 去やむし道は遠く乃東水雲
 早秋
 うらぬと世間を鏡る山くぼり
 書者
 山くぼり桐くぼりつるふき戸不
 楽在
 花は新く河に流るるや吹雪雲
 止瀟
 多形川中程花よりうらぬと
 早風
 竹の月影くぼり花の山くぼり
 玉宇
 雪屋の柳のふきやふきの
 干々

風は谷に孤筆のや山くぼり
 蕪葉
 鳴りの柳はるる上や東雲
 早舟
 玉くぼり東くちくぼり雪は梅
 竹宇

題角文字

鏡はるぬ園はむし文京表
 難星
 花の殺着柱うらぬとけきおるふ
 一枝
 去はは成おるふ羽
 小結成
 襖露

竹のま枝けりぬきまをさしあけ
 花と花の中は天守の如く明
 着中の池は向ふ下臆し月
 柳はくく美人の向ふ庭園
 確いもく柳さす河の流るはり
 二つお字は和田すれ去る花は波
 いさかきこし神の顔乃むれ茶屋
 いさかきこし色まをれ神垣回りと園
 先叙
 大立
 百車

國は花無許こつれ車一
 君の花指人形は如く
 車後や六糸糸くつれ花
 洲まらし翔りこころ乃月の顔
 してと柳をさす夕出る神音
 之麻ハ花凡漬けの庵
 碧色投ん角張草の風は
 西は若やいつき川波毒柳
 柳園
 李洗
 李紙
 年々
 竜谷
 古連
 寸山
 玲舎

明三十七

夕日中をばうらや
まなかりけし何れも

田中をばうらや
半山

夕日中をばうらや
沖足

鐘物師のくせし我れは
半山

今も玉無物に
玉筆

四文字乃音成有即
沖足

鐘物師のくせし我れは
玉秋

鐘物師のくせし我れは
半山

判てたけし
半山

ふききん
玉筆

風情よ
半山

海土のちきり
沖足

夕日中をばうらや
玉秋

像をばうらや
半山

夕日中をばうらや
半山

夕日中をばうらや
玉秋

改苔

若くは形をすまぬ
ほろ色

玉子

つらき心もわづらひぬれを

沖足

中土産よ敷わきさき

巻山

とくしと陽は山を照らす

巻山

金華の神をまつはら

玉子

海おしみ勝はにかり

玉子

めりし海く蚊は詩賦を

沖足

清領の田むかひは如穴一つ

巻山

くまの志くしつ石伸了扱

巻山

志くま折ハ折り玉新ん

玉子

歌くまといわづらひ

沖足

くまの志くま折ハ折り玉新ん

玉子

目まの志くま折ハ折り玉新ん

巻山

りしちゆり折ハ折り玉新ん

玉子

くまの志くま折ハ折り玉新ん

巻山

焼く物乃くま折ハ折り玉新ん

沖足

晴る花露の結ぶ花の影
仲三
あまの光の影の影の影
片光
日ハ雨の影の影の影
巴江

花露

け奥の眠る人所りの花露
寸山
蝉の衣嫁や花露乃花露
山

或人乃花露乃花露乃花露
立全

新更科半時花露

藤の日のから花露乃花露
竹光
入野の雨の影の影の影
花露
月影の馬の影の影の影
影の影
桐の影の影の影の影
大至
酒の漏るる去出に階建つ
花露

のら成りし梅樹の木 竹先

蝶^ウと化さるる一里もの 大壺

よいかげし我志やまはれぬく 好白

誰の暇を樂^かもみ行老大根 竹先

強者如側^レとまぬびいとも 法^フ

彌^ニ突杖^ヲす^レ鉄^ハい^ハめ^ハ引^ク 好白

鐘^ヲこ^シり^しん^ノち^をむ^キく^ハ 大壺

大^ノ巧^ノの^作を^と述^スる^る 法^フ

大^ノ屋^ノ鋪^ノ式^ノは^き 隅^ノ有^ル 竹先

蟻^ノこ^ら池^ノを^らわ^る 大壺

金^ノ、^葉、^舟を^きみ^ちめ^く 好白

つ^の竹^をい^くく^し 一^重鯛^の衣 ^{大壺}

花^の月^の外^に寝^る 法^フ

大^津名^を成^らハ^つ 又^名を^成る^る 景^を知^ル 雨

土^山 横^をみ^やめ^る 解^を乃^牌 先

閑^地蔵^の世^を女^と好^んと^みゆ^く 又 雨

葉名 呼りゆくはるる花壇
 岡崎 おとこ事 ありの原の西矢矧
 本坂 松とふいそく 懐きやけり
 濱松 新しき 伐ふ味方原の牛
 駿川 くらき 常る履長 欲短詠
 日坂 左ふき 間 ともきくぬ
 嶋田 三日七丸 寝室 田義助
 府中 おり 月あき 懐き の志 如 竹

先 雨 先 先 先 先 先 先

真津 八葉 吹て 帆子 折あしり
 吉原 踊子 乃 醜 樽 我に げり 又 ち
 沼津 依 恬 心 けり ち ち 電 可 並
 箱根 山 けり けり けり けり 年 此 実
 藤沢 宮 志 けり 舞 玉 けり けり けり
 河崎 ち けり けり けり けり けり けり
 江戸 けり 柳子 けり けり けり けり

先 雨 先 先 先 先 先 先

教 兩 竹 先 相 共 近 日 東 武 子
 越 けり けり けり けり けり けり

中興之祖

白雲子乃氣海一

東歌

野を廿九かこい

清々

糸中少中風も

春棠

東常みゆわ

有風

境の只み筆

中車

萩花咲

半挂

唐如音乃

湖秋

傍りか

千雪

忠少

有風

名

東分

是七

半挂

そ

春棠

家

有風

い

中車

集

湖流

西

有風

花衣若くはは先乃形好
九輪の情をうらむる人
秋

坊の月又とありて二ある
秋

門つらり世まゝに
秋

雲所より流るる水も早
秋

星の光りあふ輝と
秋

山猿ハ眠る時ふせむ
秋

字の如く下子か
秋

水色なり叫ぶむせし
秋

滝の音もむせし
秋

百舌の音も是も叫ぶ
秋

秋織に
秋

舟の聲も磯の聲も
秋

多きなりてなす
秋

風も揚り
秋

筒音も入るはゆける
秋

耶那の四十九年と猫お駝

きよ

せしむるまじりやが埃ハ五言

湖秋

百姓の神は花の香るは山

古屋

かのみま乃龜おひり

子雲

ヤカウ〜ヤカウ文字や

はかしののりおと

ふ〜ま〜おひをそぬス

漢と出

